

○ **はらまち九条の会**の活動費が不足してきました。カンパを募っています。アカマンマ
会計係の井上まで、よろしくお願いいたします。

いぬたで
犬彦
アカマンマ



九条はらまち

「はらまち九条の会」会報 No.223

2013(平成25)年 9月 4日(水)発行



○ **「はらまち九条の会」**は、戦争放棄の憲法第9条を護って「戦争をしない国・日本」をめざす、自由な市民の会です。支持政党、主義主張は問いません。もしも第9条が改定され、自衛隊が「国防軍」になって、集団的自衛権をふりかざしアメリカと地球の反対側で戦い、徴兵制が施行されたら、まるで戦前への回帰です。戦争でなく外交の時代です。戦争や軍備より“天災”に備える時です。○ **「はらまち九条の会」**は05年12月に発足し、事故の福島第一原発に世界一近く、活動している「九条の会」です。年会費千円。匿名でもけっこうです。会員はもう全国各地に435名。どなたでもご入会、大歓迎です！

政治も社会も、不安や怒りが山積みです

◇深刻で危険で不安な問題について、皆さんもご意見をお寄せ下さい◇

憲法9条 ●『平和の祭典』の五輪東京開催決定ですから、平和憲法の第9条を改定する必要はもうありません。国防軍を創設してどこの国と戦争するのか。隣国との対立を自ら扇動しておいて、まるでマッチポンプ（火付けと火消しが同一人）だ。9条も96条改定も国民の反対が強いので「解釈改憲」するのは、姑息です。

集団的自衛権 ●五輪開催ですから、大嫌いな近隣諸国とも世界のどの国とも、平和な友好関係を保たなければいけませんし、アメリカに盲従するだけの集団的自衛権は愚かしい。集団的自衛権を語るなら、アメリカと共同トモダチ大作戦で、原発事故で住めなくして失った我が古里、相双地区の「領土（琵琶湖の約1.5倍）」を、目に見えない放射能から奪い返してください。

特定秘密保護法 ●「国や権力者の判断、解釈の仕方ではどんなことでも何とでもコジつけられてしまい、原発の情報も秘密になる。昔戦争のあった時代と同じになります。」（山本太郎）

地震・津波 ●まだ行方不明の方が全国で2,654名、原発に近い浪江町でも33名いて、南相馬市でもまだまだ捜索が続いています。市内の震災関連死者も428名で全国一。統計の数でなく、一人ひとりのことをしのびたいものです。復興は口先だけでどこに行ってしまったのか。

原発・汚染水 ●事故直後から心配されていたこと。「汚染水は原発港湾内0.3平方kmメートル範囲内に完全にブロックされている。原発はコントロールされている。健康も問題ない」（安倍首相）「汚染水をコントロールできているなどと誰も信じていない。首相はバスに乗ってやってきて、一瞬だけ見て何がわかるのか」（桜井勝延南相馬市長・本会会員）福島県内に小児甲状腺がん・疑いのある人44名の現実を、安倍首相はどう弁明するのか。



被災者の人権 ●私たち被災者は憲法で保障されている諸権利、『恐怖と欠乏から免れ平和に生存する権利・前文』『個人の尊重、生命、自由、幸福追求の権利・13条』『居住、移転、職業選択の自由・22条』『健康で文化的な生活の保障、生存権・25条』『ひとしく教育を受ける権利・26条』『財産権・29条』などがほとんど軽視されて、棄民の状態にあります。

消費税増税 ●茶番の諮問会。貧者に厳しく富者には甘い。マスコミがべったりと政府寄り。

東京五輪 ●素直に喜ぶたいが、東京の一人勝ち、地方切り捨て、営利優先で大企業がまた大儲け。五輪施設優先で人材や資材不足になり、原発の収束や復興、被災地がまた犠牲になりそうです。「汚染水で太平洋が全滅してアメリカが怒り出し、東京五輪をボイコットする選手が多くなり、東京国体になりますよ。」（広瀬 隆・9月福井集会で）

■すべて、テレビや新聞が政府に寄り添い欣喜雀躍。異論や批判の報道が本当に少ない！！



「こんな南相馬に誰がした」と叫びたい

「福島県医師会会報25.8」より 「はらまち九条の会」会長 平田慶肇

福島県医師会会報第75巻第8号(25.8)

怒りの南相馬

平田慶肇



あの忌まわしい東日本大震災及び東京電力原子力発電所の爆発事故以来、早くも2年半になろうとしているが、この事件も福島県以外では何か風化して来ているように思われる。ここ南相馬の放射性物質による環境に関していえば、事故当時から何も変わっていないし、今もなお安心して子育てのできる環境とは決していえない。従って、避難先から子どもたちやその母親達が帰還できないでいるのも本当に悔しいけれど仕方のないことである。その影響で、当小児科医院は診療を継続することが困難になり、いまだに休業中の状態である。もともと当地方気候は温暖で台風の影響も殆んどなく、住環境としては恵まれていた筈であるが、北部の水産業以外資源にも乏しく、人びとの性格ものんびり型が多く、この事態になっても目立った抗議活動や反対運動も起らない。こんなところがこの危険極まりない原発の建設地に選ばれた理由なのだろう。今の選挙制度が続くかぎり、相馬・双葉は完全に二分されて地元選出の政治家の出現はまず無理であり、また電源三法の悪影響で交通網の整備も大幅に遅れ、国策でますます過疎化が推進されてきたものと思われる。

原発の建設当初、東京電力はあの海拔35mの台地を25mも掘り下げて港をつくり、発電

所を建設しているのです。自然に逆らわなければあの津波の被害もなかった筈です。

又、当時の当医師会の役員が、ある会議でどうしても原発を建設するのであれば、もし事故が起きた場合避難道路としても必要なので常磐高速道を早く建設して欲しいと要望を出したところ「原発は安全なので、その必要はない」と一蹴されたと憤慨して報告していたのを思い出します。

案の定、今回の事故では当地方の人々は南北の交通路は遮断され、結果的に最も放射線量の高い西側のルートを多くの時間をかけて、津島、飯館、川俣へと避難せざるをえなかったのである。百億円以上もかけてつくられたあのSPEEDIの情報を握りつぶしたのも、その発表を遅らせたのも作弄的と思えない。その為に、後々2ヶ月間以上も高汚染地区に放置された飯館村住民を国や県は一体どのように考えているのであろうか、もし被害者が出た場合、大問題になることは必至である。永年、村の乳幼児健診に携わってきた者としても一人の犠牲者も出ないことをただ祈るのみである。

また県の情報管理なのか弘前大学の床次教授グループの調査研究を県側が拒否したということであるが、多方面からの情報があってもよいと思う。隠蔽体質はかえって不信感を強くする。

原発の廃炉作業は遅々として進まず、汚染水の問題も除染の問題も全く先が見えない。

若者の帰還はなく、家族間の心は分断され、補償金問題もからんで人々の労働意欲さえ失われつつある。

「こんな南相馬に誰がした」と大声で叫びたい心境です。

(相馬郡医師会 自宅)

読書紹介



すげのや あきら氏

早乙女勝元編『平和のための名言集』大和書房¥1800+税

福島県九条の会代表の吉原泰助先生(元・福島大学学長)がご推薦の本。反戦・平和・人権・環境問題・反原発など、古今東西366の名言・至言・警句を収録。

菅谷昭著『原発事故と甲状腺がん』幻灯舎新書¥838+税

著者は甲状腺がんの専門医師。チェルノブイリ事故後、5年半現地で医療支援活動。2004年から長野県松本市長に就任。この本では、チェルノブイリ事故から学び、福島原発の健康被害も、詳しく分かり易く解説されています。お薦めの一冊です。